発達障害特性を示す非発達障害グループ

－反応性アタッチメント障害，外傷性発達障害，２E，貧困による影響

Non developmental disoeder group indicating the characteristic of developmental disorder - Reactive attachiment disorder, Sick mother, Twice exceptional and Poor

長　澤　正　樹

１．発達障害特性

発達障害特性とは，発達障害ではない（診断されていない，診断基準に達しない）にもかかわらず，発達障害特有の行動特性を意味する。具体的には，①学習困難（読み書き計算の困難さ，低い学力），②注意の持続や維持，自己コントロールの困難さ（ADHD特性），③コミュニケーションや社会関係の困難さとこだわりなど特異な行動特性（ASD特性）をさす。文部科学省（2012）の調査では，小中学校の通常学級に在籍する児童生徒を対象としたスクリーニングにより確認された学習困難は4.5％，ADHD特性は3.1％，ASD特性は1.1％であった。医師の診断による結果ではないことや，学年進行で該当する割合が減少していることから，発達障害ではなく「発達障害特性」と言うべきであろう。他にもFarris, Nicholson, Borkowski & Whitman（2011） によると，教師と親によるスクリーニングで14歳女子に26％のADHDボーダーが確認されたと報告しているが，これもADHD特性ととらえるべきではないか。

そもそも発達障害そのものの実態は明確とは言えない。なぜなら定義や診断基準の変更があったり，診断精度の向上や診断を受ける人の増加など，様々な理由により報告される頻度は多様である。発達障害の頻度に関する報告は次の通りであった。ASDの頻度に関する報告（Bowker, Angelo, Hicks & Well, 2011）では，1994年から96年サンフランシスコの調査によると4.7％，ASDとADHDを対象としたイギリスの調査（Russell, Rodgers, Ukoumunne & Ford, 2014）では，ASD1.7%・ADHD1.4%・両方0.3％であった。さらに，頻度の増加傾向も合わせて報告されている。例えば，1995年から2010年までのオランダではASDの頻度が人口10万人あたり9人から38.6人と大幅に増加しており（Jensen, Steinhausen, Briciet & Lauritsen, 2014），この傾向はスウェーデン（Nygren, Cederlund, Sandberg, Gillstedt, Arvidsso, Gillberg, Andersson & Gillberg, 2012）。デンマーク，オーストラリア（Pinborough-Zimmerman, Bakian, Fombonne, Bilder, Taylor & McMahon, 2012）でも確認されている。

発達障害と診断することによりその特性にあった支援や指導が行われる。しかし，実際の教育現場では未診断で発達障害特性のある児童生徒が多く見られる。特別支援教育の進展や教員が発達障害の研修を受けることにより，発達障害の児童生徒に対して，的確な指導が保障されるようになった。しかし，発達障害特性のある子どもがすべて発達障害とは言えず，特性を示す別の要因がある可能性があるし，その数は少なくない。発達障害ではない発達障害特性のある児童生徒の指導支援には，「別の要因」こそ対応すべき場合がある。なぜなら，発達障害特性のある児童生徒については，発達障害に有効だとされる治療や訓練をしても効果が現れないばかりか，状態が悪化することがある。

そこで，発達障害特性を示す要因を明らかにすることと，その要因への対応をすべきである。ここでは，その要因として考えられる４つのグループを発達障害特性のある非発達障害とし，主な定義とよく

2015.6.11　受理

見られる発達障害特性，発達障害と異なる特性，そして事例を示した。

2．発達障害特性のある非発達障害

⑴ 反応性アタッチメント障害（以下，RADと略す）

① 定義，特性，相違点

定義は，「生後五歳未満までに親やその代理となる人と愛着関係が持てず，人格形成の基盤において適切な人間関係を作る能力の障害」（杉山, 2007）である。男児は母親の冷たい態度や身体虐待に強く影響され，女児は母親の心理的不安に強く影響される（Chang, Shery, Olson, Sameroff & Sexton, 2011）など，性差もある。特性は青年期に至るまで継続することが多い（Thornberry & Henry, 2012）。

よく見られる発達障害特性は，大別して次の２群が知られている。1）抑制型は他者に対して無関心でありASDに類似している。一方，2）脱抑制型は部分的な愛着関係の状態に取り残され，他者に対して無差別に薄い愛着を示し，ADHDに類似している（杉山, 2007）。

発達障害と異なる特性であるが，ASDとの違いは，RADは対人関係の持ち方が敏感であることと，ASD状態が変容すること（脱抑制型に移行）などである。ADHDとの違いは，RADはハイテンションのリズムが持続するのではなく部分的（夕方からハイテンションなど），対人関係の持ち方が逆説的で複雑，反抗挑発障害への移行が多い，解離状態が見られる（杉山, 2007）。さらに，感情調節不全や外在的問題行動の多さなども確認されている（Okado & Bierman, 2015）。小野（2012）は，RADのある子どもは問題行動を直視できず，遺棄と剥奪への代償を求める欲求表出があることを述べた。とはいえ，発達障害との判別は，家庭環境や養育状況を丹念に検証しなければならず，困難だと言える。

児童相談所の児童虐待の相談対応件数（平成24年度）は，児童虐待防止法施行前（平成11年度）の5.7倍に増加（66,701件）している（厚生労働省, 2013）。通報されない件数はこの数値を上回ると考えられる。また，矯正施設における入所者が示す発達障害特性が虐待の強い影響を受けていることが知られている（松浦, 2012）。

② 事例１：幼児

事例の内容は個人が特定されないよう，目的の本質に影響ない程度に変更した。

A児（男）は当時保育園年長児で，医療機関にてADHDと診断されていた。集団活動でじっとしていない，注意しても指示に従わず保育士に反抗する，作品や掲示物を壊したり破いたりするなどの問題により，園長が相談機関に対応を依頼した。専門相談員がA児の行動観察をしているときは，保育士の指示に従い課題に従事し，きつい口調でうまくできないことを主張する以外，目立った逸脱行動は見られなかった。さらに専門相談員の存在が気になるのか，たえず相談員の動きを見ており，自由時間にはつきまとうような態度も見られた。

専門相談員はそのようなAの態度が気になり，虐待を疑い児童相談所に対応を求めた。その結果，父親からの継続的な身体的虐待が明らかになった。相談を求めた時期に実施したWISC-Ⅳの結果は次の通りであった。FSIQ：100，VCI：95，PRI：111，WMI：97，PSI：96。検査には集中して取り組み，検査中逸脱行動は全く見られなかった。検査者によれば，一対一で相手をしてもらっていることに満足しているように見えたという。

A児の場合，ADHDではないと気づかされる特徴は対人関係の持ち方とWMIが通常範囲であることであった。さらに，トークンシステムなどの行動療法が全く機能しなかったこともADHDではないことを感じた。もちろん，検査結果やいくつかの状況証拠だけでADHDを否定することは妥当ではない。ADHDではない場合，最初に疑うのはRADであり，そのためには家庭の状況調査が必要不可欠であり児童相談所との連携が欠かせない。

⑵ 外傷性発達障害

① 定義，特性，相違点

この障害名は（岡田, 2007）が提案した。定義は，母親の精神的な問題（うつ，双極性障害，適応障害，境界性パーソナリティー障害など）により，子どもの心や行動，発達に問題を起こし，発達障害特性を示すことである（Bradley & Corwyn, 2013; Dougherty, Tolep, Smith & Rose, 2013; 岡田, 2007; Shanley & Reid, 2015; van Steijn, Oerlemans, van Aken, Buitelaar & Rommelse, 2014; Zablotsky, Anderson & Law, 2013）。うつの母親の表情が影響しているとの指摘もある（Kujawa, Torpey, Kim, Hajcak, Rose, Gotlib & Klein, 2011）。母親に限定しているが，そもそも，母親のほうが精神的ストレスを多く感じるしさらされている（Jones, Totsika, Hastings & Petalas, 2013）し，子育てへの責任の大きさと苦痛，不安などから，父親よりうつが多

いことが知られている（Foody, James & Leader, 2015）。最近は，父親のうつの事例も報告されてい る（Herbert, Harvey, Lugo-Candelas & Breaux, 2013）。なお，うつの原因としてDVが多く見られることもこの問題に対応する上で重要な情報である（McDonald, Dodson, Rosenfield & Jouriles, 2011）。

発達障害特性は，多動と学習上の問題，攻撃行動，反抗，いじめ，不登校，虚言，盗癖，非行，うつ，不安，依存症，性的逸脱など，多岐にわたる（Dubois-Comtois, Moss, Cyr & Pascuzzo, 2013; Kerr, Leve, Harold, Natsuaki, Neiderhiser, Shaw & Reiss, 2013; 岡田, 2007）。この中には発達障害特性が多く見られるが，発達障害特性からの二次障害が多く見られる。おそらく子どもの異変に気づく存在が不安定な状態であるが故に，気づきが遅くなり，二次障害になってはじめて周囲が気づくのではないか。

発達障害と異なる特性は，RADに類似している。母親の状態によっては虐待に移行する場合もあり，RADの場合もある（Callender, Olson, Choe & Sameroff, 2012）。やはり判別は困難で，母親の状態を把握しなければ判別はむずかしい。しかし，母親と子どもの発達への適切な対処で回復する点が，発達障害と違っている。

② 事例２：小学生

B児（男）は当時小学校通常学級３年生であった。ルールに従った活動や遊びが苦手，ことば通りに受けとめ攻撃的になる，説明しても自分の非を認めない，学習の遅れ（小学校１年程度の学力）などから，学校が教育委員会の相談事業に相談を申し出た。発達障害の専門相談員がB児の学習の様子を観察すると，学校の報告の通り，自分勝手に話し続けたり課題をしなかったり，たち歩いたりする行動が見られた。学力の遅れが見られることから，WISC-Ⅳを実施した。結果は，FSIQ：90，VCI：109，PRI：80，WMI：91，PSI：83であった。専門相談員によると，B児が示す行動と学力の現状と，検査結果とのギャップに発達障害以外の原因を感じた。

そこではじめて保護者を学校に招き，家庭での様子を聞いたところ，母親のうつがはじめて明らかになった。発症はB児が２歳以前でありほとんど母親が育児をせず，さらに父親の育児への関与もあまりなく，祖父母がかろうじて食事など最小限の養育をしていた。その後両親は離婚し，B児は父方の祖父母（まもなく祖母が死去）と父親に養育されることとなった。

B児の場合，母親のうつだけが現在の発達障害特性の原因とは言えない。恵まれない育児は虐待に等しい場合があり，その影響も十分考えられる。しかし，子どもが小さい場合のうつ（特に産後うつ）の影響が強いと考える。

③ 事例３：女子高校生

C児（女）は普通高校１年生であった。学校では生徒指導上の問題も学力の問題も見られなかったが，友達が一人もいないことや休み時間にも誰とも交わらないことを心配した担任が，配属されていたスクールカウンセラー（SC）に相談した。SCの提案によりSCが直接C児のカウンセリングを実施した。SCによると，発達障害特性は特に感じられない，常識ある言動でSCへの気遣いも見られたとのことであった。家庭環境は母親と二人家族で，母親は高収入の職業でしかも虐待を疑われるような情報はなかった。

しかしその後，C児が警察に補導され，反社会的集団のメンバーとの交際が発覚した。C児が自らそのようなメンバーに接近し，次々に関係を求め，さらには気が乗らないときに暴言を吐き，このことで脅迫されていたこともわかった。学校で見せていた姿と下校後の姿は全く逆で，問題につながる基本的な特性（衝動的態度）はADHD特性にかなり近かった。

この事件から母親の実態やC児との関係が明らかになった。それはC児が小学生の頃にうつを発症し，その苦しさをC児に延々と聞かせており，C児はカウンセラーのように聞き役に徹していたこと，中学になりそのような母親の態度に煩わしさを覚えながらも拒否できずリストカットを繰り返していたこと，最終的に自ら体を著しく傷つける行為に悪化していたことなどであった。

⑶ 高い能力と発達障害特性（Twice Exceptional, 以下２Eと略す）

① 定義，特性，相違点

Baldwin, Omdal & Daphne（2015），Morrison & Rizza（2007）による２Eの定義は，優れた能力と，（発達）障害特性の二つを備えている状態で，どちらかの能力が他方に隠れていることがある。つまり，1）優れている子どもに見えるが，学習障害特性がある，2）できない子どもに見えるが，優れた能力を発揮できていない，3）双方の能力が補い合い問題がないように見える３種類のサブタイプがある（松村, 2012）。

次に発達障害特性であるが，以下に示すのはあく

までも優れた能力と弱い能力を有する場合の具体例の一部である。豊富な語彙で流暢に話すが書字が困難，注意集中の問題（ただし，興味のあることには抜群の集中力を発揮する）人間関係構築・維持の困難さ，そしてしばしば問題行動を起こすこともある（Morrison & Omdal, 2000）。

発達障害と異なる特性であるが，発達障害とはっきり区別することが妥当かどうか，検討が必要である。発達障害の中でもASDは高い能力とそうではない能力を有する場合がある。また，高い能力を有する場合，gifted（ギフテッド）の可能性もある。

② 事例４：中学生

D児（男）は中学校通常学級２年生であった。不登校を主訴として市の教育相談センターに母親が相談を依頼した。母親によると，幼い頃から人とかかわることが苦手で，一人で昆虫や家電を分解することに興味を示していた（小学校では理科のみ興味を示し，中学生が通う理科クラブに参加していた）。小学校に入ってからは行事や集団での活動に抵抗することが多く，担任は何とかみんなと同じようにできるように指導し，このことがD児にとって苦痛となり登校しぶりが始まり，高学年になると不登校になった。

中学校に入ってからも登校しぶりや欠席が目立ったが，家庭では気が向いたときのみ通信教育の教材で学習していた。前期の中間テストは適応指導教室で受けたが，結果は以下の通りであった。国語52点，社会87点，数学58点，理科91点，英語61点。理科と社会は，答が合っていて本来100点だったが，誤字で不正解になった。記述式の問題は，ほとんどがひらがなであった。

教育相談センターの担当者によると，ASD特性を感じたが，他者理解や状況の理解ができ，常識ある態度や会話ができることにASDとは違った雰囲気を感じた。WISC-Ⅳの結果は，FSIQ：119，VCI：146，PRI：111，WMI：115，PSI：78であった。FSIQ，PRI，WMIは標準もしくは標準よりやや上であるが，VCIが極めて高いこと，PSIが著しく低いこと，VCIとPSの差が68であることなどから，学力の実態を合わせて判断すると2Eではないかと思われた。

⑷ 貧困による影響

① 定義，特性，相違点

貧困とは，経済的な理由によって生活が苦しくなり，必要最低限の暮らしが困難になることである。厚生労働省（2010）によると，平成21年の貧困線（等価可処分所得の中央値の半分）は112万円（実質値）となっており，「相対的貧困率」（貧困線に満たない世帯員の割合）は16.0％となっている。また，「子どもの貧困率」（17歳以下）は15.7％となっている。

発達障害特性であるが，貧困により親の心理的QOLの低下を招き養育の質が低下することと，学力や社会的能力の形成につながる教育的文化的投資の低下から，学力の低下（学習困難）を招く可能性がある（阿部, 2014; Hosp & Reschly, 2004; Lengua, Moran, Zalewski, Ruberry, Kiff & Thompson, 2015; Shifrer, Muller & Callahan, 2011）。また，自己肯定感の低下から，内在的・外在的問題行動につながることも知られている（Benner, Nelson, Sanders & Ralston, 2012; Bøe, Sivertsen, Heiervang, Goodman, Lundervold & Hysing, 2014; Flouri, Midouhas & Joshi, 2014; Hyde, Shaw & Moilanen, 2010）。

発達障害と異なる特性であるが，本人が現状の原因（貧困）を自覚している場合が多いので，発達障害との見極めは可能であろう。経済的な困難さは，家庭への経済援助の実態を学校が把握できるため，学校の気づきも可能である。

なお，⑶を除く３種類は，二次障害ととらえることが妥当である。

３．今後の課題

発達障害特性のある非発達障害の児童生徒に対し，学校教育現場で必要なことを３点述べる。

⑴ 慎重な見極め

RADは応用行動分析による介入がうまく機能しないことが知られている（Vancraeyveldt, Verschueren, Wouters, Craeyevelt, Noortgate & Colpin, 2015）。つまり，ルールを提示しルールを守ったことを強化するという教育現場で普通に適用されてる介入で行動改善させられないばかりではなく，逆に悪化することもある。子どもの実態に合わない対応が，問題行動につながる（Seymour, Wood, Giallo & Jellett, 2013）。発達障害特性を示す先天的要因以外の要因を明らかにし，その要因（虐待，母親のうつ，貧困）への対応を急ぐことである。２Eに関しても，表面的に示す発達障害特性だけなのか，知能検査等により見極めることが不可欠である。

Gillderg(2015)は，神経精神医学的／神経発達的診察が必要になる早期徴候症候群(Early Symptomatic Syndromes Eliciting Neuropsychiatric/

Neurodevelopmental Clinical Examinations，ESSENCE と略す）というとらえ方を提唱している。つまり，発達障害と診断することがむずかしい早期の段階でも，微弱な発達障害特性に気づくことと，その対応を実行することが必要だと考える。

⑵　関係機関との連携

慎重な見極めには学校以外の専門機関との連携が不可欠である。虐待については児童相談所が，親のうつや２Ｅの判断については医療機関が，貧困については福祉事務所が，それぞれの専門機関であり窓口である。さらに，非発達障害の発達障害特性は，きわめて複雑な家庭や複数の要因が複雑に絡んでおり，実態を明らかにすることは容易ではない（Bachman, Coley & Carrano, 2011; Callender, Olson, Choe & Sameroff, 2012; Coley, Carrano & Lewin-Bizan, 2011; Morrison ＆Rizza, 2007）。学校以外の専門機関が中心となり，学校が協力して連携体制を作り，要因の解明をはかるべきである。同じように対応や支援についてもしかるべき専門機関が主体となって取り組むべきであろう。特に貧困対策は国が主体となって取り組むべきであり，文部科学省（2015）が「生活困窮者自立支援制度に関する学校や教育委員会等と福祉関係機関との連携について」通知を出したことは評価できる。当然のことであるが，経済的支援と合わせ，親を対象とした子育て支援を取り入れていくことはいうまでもない（Brock, Kochanska, Hara & Grekin, 2015）。

⑶　多層介入モデルの導入

学校だけでの判断が困難であることは事実であるが，二次障害が起きるまで待つのではなく，早期の気づきにつながる対応を実施することである（Benner, et al., 2012）。例えば，発達障害特性の有無についてスクリーニングを実施するとか，学力や行動面で一定の到達基準を設定し，基準に到達しない児童生徒について実態把握をすること。最初から発達障害を疑うのではなく，発達障害特性のいくつかに該当する徴候に早く気づき，専門機関と連携を始めることが重要である。

文献

阿部彩（2014）　子どもの貧困Ⅱ－解決策を考える．岩波新書.

Bachman, H. J.，Coley, R. L. & Carrano, J. (2011) Maternal Relationship Instability Influences on Children's Emotional and Behavioral Functioning in Low-Income Families. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 39(8),1149-1161.

Baldwin, L, Omdal, S. N. & Daphne, P. (2015) Beyond Stereotypes Understanding, Recognizing, and Working With Twice-Exceptional Learners. Teaching *Exceptional Children,* 47(4),216-225.

Benner, G. J., Nelson, J. R., Sanders, E. A & Ralston, N. C. (2012) Behavior Intervention for Students with Externalizing Behavior Problems: Primary-Level Standard Protocol. *Exceptional Children,* 78, 181-198.

Bøe, T., Sivertsen, B. C., Heiervang, E., Goodman, R., Lundervold, A. J. & Hysing, M. (2014) Socioeconomic Status and Child Mental Health: The Role of Parental Emotional Well-Being and Parenting Practices. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 42(5),705-715.

Bowker, A., Nadia M., Angelo, D., Hicks, R. & Wells, K. (2011) Treatments for Autism: Parental Choices and Perceptions of Change. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 41(10),1373-1382.

Bradley, R. H. & Corwyn, R. (2013) From Parent to Child to Parent…: Paths In and Out of Problem Behavior. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 41(4),515-529.

Brock , R. L., Kochanska, G., Hara, M. W. & Grekin,R. S. (2015) Life Satisfaction Moderates the Effectiveness of a Play-Based Parenting Intervention in Low-Income Mothers and Toddlers. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 4月11日オンライン

Callender, K. A., Olson, S. L., Choe, D. E. & Sameroff, A. J.(2012) The Effects of Parental Depressive Symptoms, Appraisals, and Physical Punishment on Later Child Externalizing Behavior. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 40(3),471-483.

Chang, H., Olson,S. L., Sameroff, A. J. & Sexton, H. R. (2011) Child Effortful Control as a Mediator of Parenting Practices on Externalizing Behavior: Evidence for a Sex-Differentiated Pathway across the Transition from Preschool to School. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 39, 71-81.

Coley, R. L., Carrano, j. & Lewin-Bizan, S. (2011) Unpacking Links between Fathers' Antisocial

Behaviors and Children's Behavior Problems: Direct, Indirect, and Interactive Effects. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 39(6),791-804.

Dougherty, L. R., Tolep, M. R., Smith, V. C. & Rose, S. (2013) Early Exposure to Parental Depression and Parenting: Associations with Young Offspring's Stress Physiology and Oppositional Behavior. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 41(8),1299-1310.

Dubois-Comtois, K., Moss, E., Cyr, C. & Pascuzzo, K. (2013) Behavior Problems in Middle Childhood: The Predictive Role of Maternal Distress, Child Attachment, and Mother-Child Interactions. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 41(8),1311-1324.

Flouri, E., Midouhas, E. & Joshi, H. (2014) Family Poverty and Trajectories of Children's Emotional and Behavioural Problems: The Moderating Roles of Self-Regulation and Verbal Cognitive Ability. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 42(6),1043-1056.

Herbert, S. D., Harvey, E. A., Lugo-Candelas, C. I. & Breaux, R. P. (2013) Early Fathering as a Predictor of Later Psychosocial Functioning Among Preschool Children with Behavior Problems. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 41(5),691-703.

Farris, J. R., Nicholson, J. S., Borkowski, J. G. & Whitman, T. L. (2011)　Onset and Progression of Disruptive Behavior Problems Among Community Boys and Girls: A Prospective Longitudinal Analysis. *Journal of Emotional and Behavioral Disorders,* 19(4) 233-246.

Foody, C., James, J. E. & Leader, G. (2015) Parenting Stress, Salivary Biomarkers, and Ambulatory Blood Pressure: A Comparison Between Mothers and Fathers of Children with Autism Spectrum Disorders. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 45(4), 1084-1095.

Gillderg, C. (2015)　生涯を見通したESSENCEという考え方. LD研究,24(1),10-20.

Hosp, J. L. & Reschly, D. J. (2004) Disproportionate Representation of Minority Students in Special Education: Academic, Demographic, and Economic Predictors. *Exceptional Children,* 70(2),185-199.

Hyde, L. W., Shaw, D. S. & Moilanen, K. L.(2010) Developmental Precursors of Moral Disengagement and the Role of Moral Disengagement in the Development of Antisocial Behavior. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 38(2),197-209.

Jensen, C. M., Steinhausen, H. & Lauritsen, M. B. (2014) Time Trends Over 16 Years in Incidence-Rates of Autism Spectrum Disorders Across the Lifespan Based on Nationwide Danish Register Data. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 44, 1808-1818.

Jones, L., Totsika, V., Hastings, R. P. & Petalas, M. A. (2013) Gender Differences When Parenting Children with Autism Spectrum Disorders: A Multilevel Modeling Approach. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 43(9),2090-2098.

Kerr, D. C. R., Leve, L. D., Harold, G. T., Natsuaki, M. N., Neiderhiser, J. M., Shaw, D. S. & Reiss, D. (2013) Influences of Biological and Adoptive Mothers' Depression and Antisocial Behavior on Adoptees' Early Behavior Trajectories. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 41,(5) , 723-734.

厚生労働省(2010)　平成22年国民生活基礎調査の概況.
http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/2-7.html

厚生労働省(2013)　児童虐待の定義と現状.
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/about.html

Kujawa, A. J., Torpey, D., Kim, J., Hajcak, G., Rose, S., Gotlib, I. H. & Klein, D. N. (2011) Attentional Biases for Emotional Faces in Young Children of Mothers with Chronic or Recurrent Depression. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 39(1),125-135.

Lengua, L. J., Moran, L., Zalewski, M., Ruberry, E., Kiff, E. C. & Thompson, S. (2015)Relations of Growth in Effortful Control to Family Income, Cumulative Risk, and Adjustment in Preschool-age Children. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 43(4),705-720.

McDonald, R., Dodson, M. C., Rosenfield, D. & Jouriles, E. N. (2011) Effects of a Parenting Intervention on Features of Psychopathy in Children. *Journal of Abnormal Child Psychology,*

39(7),1013-1023.
松村暢隆(2012) 認知的個性を生かす2E(二重の特別支援)教育―発達障害と才能を併せ持つ子どもの支援―. LD研究,21(2)193-200.
松浦直己(2012) エビデンスから見た日本の矯正教育の取り組み－発達障害と被虐待の関連から－. 発達障害研究,34(2),121-130.
Mohammad, E. T., Shapiro, E. R., Wainwight, L. D. & Carter, A. S.(2015) Impacts of Family and Community Violence Exposure on Child Coping and Mental Health. *Journal of Abnormal Child Psychology*, 43(2),203-215.
文部科学省(2012) 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について. http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/__icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf
文部科学省(2015) 生活困窮者自立支援制度に関する学校や教育委員会等と福祉関係機関との連携について(通知) http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1356501.htm
Morrison, William F.; Omdal, Stuart N.(2000) The Twice Exceptional Student. *Reclaiming Children and Youth,* 9(2),103-06.
Morrison, W. F.＆Rizza, M. G.(2007) Creating a Toolkit for Identifying Twice-Exceptional Students. *Journal for the Education of the Gifted,* 31(1),57-76.
日本精神神経学会 精神科病名検討連絡会(2014) DSM-5 病名・用語翻訳ガイドライン(初版)
Nygren, G., Cederlund, M., Eva Sandberg, E., Gillstedt, F., Arvidsson, T., Gillberg, I. C., Andersson, G. W., & Gillberg, C. (2012) The Prevalence of Autism Spectrum Disorders in Toddlers:A Population Study of 2-Year-Old Swedish Children. *Journal of Autism and Dev lopmental Disorders,* 42, 1491-1497.
岡田尊司(2011) シック・マザー 心を病んだ母親とそこ子どもたち. 筑摩書房.
Okado, Y. & Bierman, K. L. (2015) Differential Risk for Late Adolescent Conduct Problems and Mood Dysregulation Among Children with Early Externalizing Behavior Problems. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 43(4),735-747.
小野純平(2012) 被虐待児の認知特性と学習の遅れ. LD研究,21(2),152-161.
Pinborough-Zimmerman, J., Bakian, A. V., Fombonne, E., Bilder, D., Taylor, J. & McMahon, W. M. (2012) Changes in the Administrative Prevalence of Autism Spectrum Disorders: Contribution of Special Education and Health from 2002-2008. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 42, 521-530.
Russell, G., Rodgers, L. R., Ukoumunne, O. C. & Ford, T. (2014) Prevalence of Parent-Reported ASD and ADHD in the UK:Findings from the Millennium Cohort Study. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 44, 31-40.
Shanley, D. C. & Reid, G. J. (2015) The Impact of Parents' Illness Representations on Treatment Acceptability for Child Mental Health Problems. *Journal of Emotional and Behavioral Disorders,* 23(2),115-127.
Seymour, M., Wood, C., Giallo, R. & Jellett, R. (2013) Fatigue, Stress and Coping in Mothers of Children with an Autism Spectrum Disorder. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 43(7),1547-1554.
Shifrer, D., Muller, C. & Callahan, R. (2011) Disproportionality and Learning Disabilities: Parsing Apart Race, Socioeconomic Status, and Language. *Journal of Learning Disabilities,* 44(3),246-257.
杉山登志郎(2007) 子ども虐待という第四の発達障害. 学研.
Steijn, D. J. van, Oerlemans, A. M., Marcel A. M., Aken, M. A. G.van, Buitelaar, K. jan. & Rommelse, N. N. J.(2014) The Reciprocal Relationship of ASD, ADHD, Depressive Symptoms and Stress in Parents of Children with ASD and/or ADHD. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 44(5),1064-1076.
Thornberry, T. P. & Henry, K. L. (2012) Intergenerational Continuity in Maltreatment. *Journal of Abnormal Child Psychology,* 41(4),555-569.
Vancraeyveldt, C., Verschueren, K., Wouters, S., Craeyevelt, S. V., Noortgate,W. V. den & Colpin, H. (2015) Improving Teacher-Child Relationship Quality and Teacher-Rated Behavioral Adjustment Amongst Externalizing Preschoolers: Effects of a Two-Component Intervention. *Journal of*

Abnormal Child Psychology, 43(2),243-257.

Windham, G. C., Anderson, M. C., Croen, L. A., Smith, K. S., Collins, J. & Grether, L. K.(2011)Birth Prevalence of Autism Spectrum Disorders in the San Francisco Bay Area by Demographic and Ascertainment Source Characteristics. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 41, 1362-1372.

Zablotsky, B., Anderson, L. & Law, C. P. (2013) The Association Between Child Autism Symptomatology, Maternal Quality of Life, and Risk for Depression. *Journal of Autism and Developmental Disorders,* 43(8),1946-1955.